

映画や協同集会のとりくみを通じて、地域の多くの人々とのつながりを広げ、高齢者協同組合を全国で発進させよう！

「全組合員経営」を合言葉に、仲間の一人一人が、労働者協同組合と社会の主人公に成長していこう！協同の新しい生き方と働き方を創造し、日本と世界の人々に「人類の希望と未来」を事実によって示していこう！

1993年5月24日

日本労働者協同組合連合会 第14回定期全国総会

〈協同のひろば〉 韓国労働者協同組合の現状と可能性を探る

## 韓国訪問・交流報告

菅野 正純（協同総合研究所・専務理事）

韓国・半月（バン・ウォル）信用協同組合常任顧問、信協ハンウリ（直訳すると「一つの私たち」）生活協同組合理事長の李健雨氏（協同総合研究所会員）の招待で、4月17～20日、韓国を訪問し、韓国の労働組合運動、協同組合運動の活動家と交流するとともに、労働者協同組合の若き研究者・金成悟（キム・ソンオー）氏と会い、彼の案内で生まれつつある韓国の労働者協同組合の現場を訪問することができました。

あわせて、ソウルや近郊の安山工業団地を回って、都市問題、環境・公害問題が深刻な事態を迎えつつあることを実感しました。また協同組合の人々とともに民俗村を見学したり、食事をともにしたり、家に招かれて家庭料理をごちそうになる中で、つよい人間的・文化的な親近感を覚えました。

ここでは、労働者協同組合をめぐる交流についてのみ、簡単に報告します。

### 労働組合運動活動家との交流

安山市（ソウル、金浦空港からそれぞれ1時間）近郊にある半月信用協同組合の事務所で、4月18日（日曜日）に労働組合運動の活動家、および生協職員に向けて、日本の労働者協同組合の実践と考え方について報告しました。

参加者は、「経済正義実践市民連合」安山支部の権泰根、金賢東氏（彼らはともに、87年民主化抗争を担った学生運動の活動家で、その後、労働現場に入って労働組合の組織化をすすめている人

たちである）、「カトリック労働司牧」のチャン・ヤン、桂仁仙夫妻、およびハンウリ生協職員の計10名。

韓国でも、景気後退、倒産、解雇の中で、労働組合運動が困難な時期を迎え、とりわけ中小企業の多い安山市では、不安定就労が広がり、仕事確保が重点課題になりつつあるとのことでした。

私の報告も、一方で失業・不安定就労の増大と、他方での労働の疎外、資本主義の企業活動による人類的な危機の深刻化の中で、労働者階級が労働組合とともに労働者協同組合をあわせ持つことの意義を強調しました。

「貧しい労働者が多い中で資金をどう積み立てればよいのか」という質問が出されました。根本的には、モンドラゴンのような協同組合金融が望ましいわけですが、それがすぐに望めないとすれば、労働者自身が働く中で出資を積み立てていくとともに、一つの事業所の成果と資金を次の事業展開に用いる連帯の観点が必要ではないか、むしろそこから労働者協同組合らしい運動が展開されるのではないか、というのが私の答でした。

翌々日、李理事長の家に参加者から「やはり労働者協同組合をつくっていかう」という電話があったそうで、日曜日の交流は、いちおう成果があったようです。

### 金成悟氏との出会い

4月19日には、アメリカの社会学者ホワイト氏の『メイキング・モンドラゴン』（日本語訳『モ

ンドラゴンの創造と展開』日本経済評論社)のハングル訳を出版した金成悟氏と会うことができました。まだ30歳の、新進気鋭の研究者です。

彼もまた、87年民主化抗争期の学生運動の活動家で、ソウル大学哲学科出身、専攻は「フォイエルバッハ〜マルクス」。卒業後、学歴を低く詐称して肉体労働の現場に入りながら労働組合の組織化をすすめ、警察にも追い回されたとのこと。エリートコースを捨てて、「ヴ・ナロード(大衆の中へ)」を実践している若者が数多くいることには感服させられました。

そうした韓国の活動家も、ソ連崩壊などの中で、「これからの労働運動をどうすべきか」という問題意識が広がっているようで、彼の訳した『メイキング・モンドラゴン』は初版5000部で、テレビでも紹介され、大きな反響を呼び、彼は講演などに引っ張りだこだそうです。今年の夏には、李理事長をはじめとするモンドラゴン調査が企画されています。ちなみに、金氏は、日本語のモンドラゴン関連文献にも目を通しており、佐藤誠氏や石塚秀雄氏の名前をあげていました。

金氏はたいへん実践的な研究者で、韓国における労働者協同組合の萌芽的实践を調査し、20企業を発掘するとともに、それらをグループ化して「協同組合企業連合会」に組織すること、さらに個人企業や倒産企業の労働者協同組合企業への転換にかけています。

### 労働者協同経営研究会について

金氏の属する労働者協同経営研究会は、「環境、協同組合、進歩的労働運動」を3大研究テーマとする「韓国仏教社会研究所」がバックになって設立された研究会です。

同研究会のパンフレットによれば、「私たちは新しい生産関係と新しい共同体をめざす」「私たちは新しい運動方向をめざす」「私たちは新しい企業文化をめざす」が、会の主旨で、活動は①研究・出版活動、②教育活動、③実践運動との相談、連帯活動から成り立っています。会のニュースレターは「労働と協同」です。

すでに昨年10月と今年1〜2月に、第1期、第2期の講座「労働者協同経営教室」を開き、5月からはソウルと仁川(インチョン)で第3期「教室」を開催します。

講座第1期の内容は次のようなものです——①「労働者協同経営とは何か」、②「社会主義圏の崩壊と労働者協同経営の意味、可能性」、③「夢の企業——モンドラゴン協同組合群の事例」、④「韓国における協同経営の事例」、⑤「労働者協同経営の実際」、⑥「協同の世界観と人生観」。このうち金氏の担当講座は②と⑤でした。

第2期では「労働者協同経営の意義ならびに労働運動の新展開」という講義が入っています。

第1期の成果は論集『労働者協同経営への道——進歩運動の新たな模索のために』にまとめられており、金氏は、「協同組合の世界的成功モデル——モンドラゴン協同組合複合体」「労働者協同経営の実際問題——倒産企業の協同企業への転換——苦悶と模索」の2論文を執筆しています。

日本に帰ってから「できるかぎり早く日本の事業団についての資料を送ってほしい」という金氏からの要請がファクシミリで入ったので、もしかしたら第3期の講座では、日本の紹介が入るのかも知れません。

### 韓国労働者協同組合の芽

4月19日午後には、金氏の案内で、韓国の労働者協同組合の現場を訪れることができました。

訪問先は、いずれもソウル市にあるもので、廃食油から石鹼をつくっている「協成生産共同体」、貧困地区でミシン縫製を行なっているシル・パナル(「針と糸」、そして純然たる労働者協同組合ではないが労働現場を労働組合が自主管理し、今後、労働者協同組合への転換も検討している家庭電機部品メーカーのソウル・ジュバの工場です。

この他、ソウルにはイルクーン・ドゥーラエという建設協同組合(30名)があり、南部では広東タクシー(48台)、新亜造船(300名)などが活動を展開しているとのことでした。

「協成生産共同体」は、民間のポリ塩化ビニー

ル工場に働いていた5人の労働者が、まともな労働環境と働きがいのある仕事を求めて1989年に設立したもので、生協を中心に宗教団体、学校、工場の食堂などから廃食油を集めて石鹼を製造しています。環境問題からの接近で、廃油の回収や石鹼の普及の面からソウル市の協力も得ているとのこと。

また、シル・パヌルは、貧困地域に住み着いて活動しているイギリス国教会の韓国人神父さんの指導で設立されたものです。この神父さんは、貧困地域の若者たちのために「夜の勉強会（塾）」を続けてきましたが、協同組合の7人もここで育った仲間。モンドラゴンを知って、昨年来、協同組合の勉強を進め、乏しい家計の中から出資を積み立て、運営委員会や配当に関する取りきめなど「身の丈にあった」定款を、みんなの話し合いで作りながら運営を進めているとのこと。まだささやかな協同組合ですが、神父さんの夢は「協同による経済民主主義を発展させること、それを担う人をつくりだすこと」だと言います。

ソウル・ジュバは蛍光灯やラジオなどのコンデンサーを生産する中小企業ですが、ここでは28歳の女性委員長・金善心さんを先頭に、労働組合が生産現場の労働者管理を要求し、実現しています。この発端は、勤務時間中にトイレにも行かせな

いなどの、労働者の人権を無視した経営側の姿勢に対する抵抗で、88年8月に労働組合が結成されて以来、労働者の話し合いの中で、自ずと生産の自主管理が労働組合の要求になっていきました。

1ラインから始まった労働者管理は、職場の民主化で生産性もあがることを実証し、全ラインに広がっています。ラインの班長による監督は撤廃され、労働者の採用、退職も労働組合の合意の上で行なわれるに至っています。金成悟氏と委員長は、弁護士や税理士の知恵も借りて、企業全体を労働者協同組合が買い取ることを検討しているとのこと。

これらに共通しているのは、政治的民主化の前進以後、韓国の労働者の中から、新しい民主主義的な働き方に対する欲求と実践が、さまざまな形であらわれていることです。

実践と理論の双方から労働者協同組合の探求が、日本と韓国において、いま多くの問題意識を共有しながら進み始めていることを実感し、胸の高鳴りを覚えました。このような歴史的な機会に際し、交流を大きくつよめて、両国の労働者協同組合運動の同時的な、相互刺激的な発展を追求したいと思います。

---

## 受 贈 図 書 文 献 1993年5月

---

### 単 行 本

- 鈴木文熹、井本正人、関根猪一郎『協同組合と地域づくり—高知レポート6』（高知文化振興事業団、93年3月）
- 王佑明編『劉少奇論合作社経済』（中国財政経済出版社、87年8月）

### 定期刊行物

- 『障害者のゆたかな未来をめざして』（月刊）第126～129号（愛知県・ゆたか福祉会、93年1～4月）
- 『P T A 研究』（月刊）第230号（全国P T A問題研究会、93年2月）

### 文献・資料

- 協同組合経営研究所「協同組合経営研究所40年の歩み」（92年12月）
- 同上「協同組合経営研究月報総目次—第1号—第471号—付・刊行資料一覧表」（92年12月）
- 角瀬保雄「ソ連企業の失敗と民主経営への教訓」（関西共同印刷労働組合『闘いの友』、93年3月31日号）
- 大塚秀雄「米価形成の歴史的特性」（農林中金研究センター研究資料No 9、90年5月）
- 青森県中高年雇用福祉事業団「中高年事業団全国連合会トップセミナーの記録」（講演：大谷正夫